

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きららステム西冠		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 9日 ～ 令和8年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	93 (回答者数)	42
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 2日 ～ 令和8年 2月 6日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに寄り添った支援	状況に応じた対応ができるように、不登校枠の時間帯や個別対応できるブース、広くはないが小集団で活動できる場など、子どもの不安軽減や、お友達とのかかわりにつなげれる機会の場を提供できるようにここがけている	不安感を抱えた子ども達が安心して社会参加が出来るように、保護者同伴での活動も相談しながら行っている
2	子どもが安心して楽しく過ごせる居場所づくり	子ども達のありのままの状況を受け入れるように、まずは不適切と思われる言動も受け入れながら「関係を積み重ねること」を目標に取り組んでいる	「安心」「受け入れてもらえた」実感が積み重なることで落ち着くことが出来る様子を経て、様々な職員とも関係を積み重ね、「出来る」経験の取り組みにつなげている
3	関係機関との連携	子どもや保護者の不安や困りごとに対し、現場での気づきをもとに相談支援専門員やSSW等の関係機関と連携し、必要な支援につなげられている	事業所として可能な限り情報提供を行い、必要な支援が適切に届く体制づくりに努めていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制の安定性	採用や人員確保が難しく、人員体制が支援の継続性に影響	職員体制の安定化を図るため、採用および定着につながる労働環境の改善が必要と考え、勤務時間や年間休日などの就業条件の見直しについて、法人に対して検討を依頼している
2	コミュニケーションの質	子どもの成長や制度変更に合わせて支援内容を更新しているが、共有のタイミングや方法にばらつきがあり、支援の意図やねらいが十分に伝わらず、対応に差が生じる場面があった	経験差による理解のズレを減らすため支援の意図・ねらい・対応手順を視覚化し、全職員が参照できるよう整備を進めている。
3	一貫性・共通理解・標準化の不足	職員の経験値・価値観・得意分野が幅広いことで、支援の進め方や声かけの基準に差が出る	多様な支援スタイルを尊重しつつ、子どもが混乱しない対応を図るため、ケース会議での共通理解の確認、支援手順書の更新、声かけ例の共有を進めている